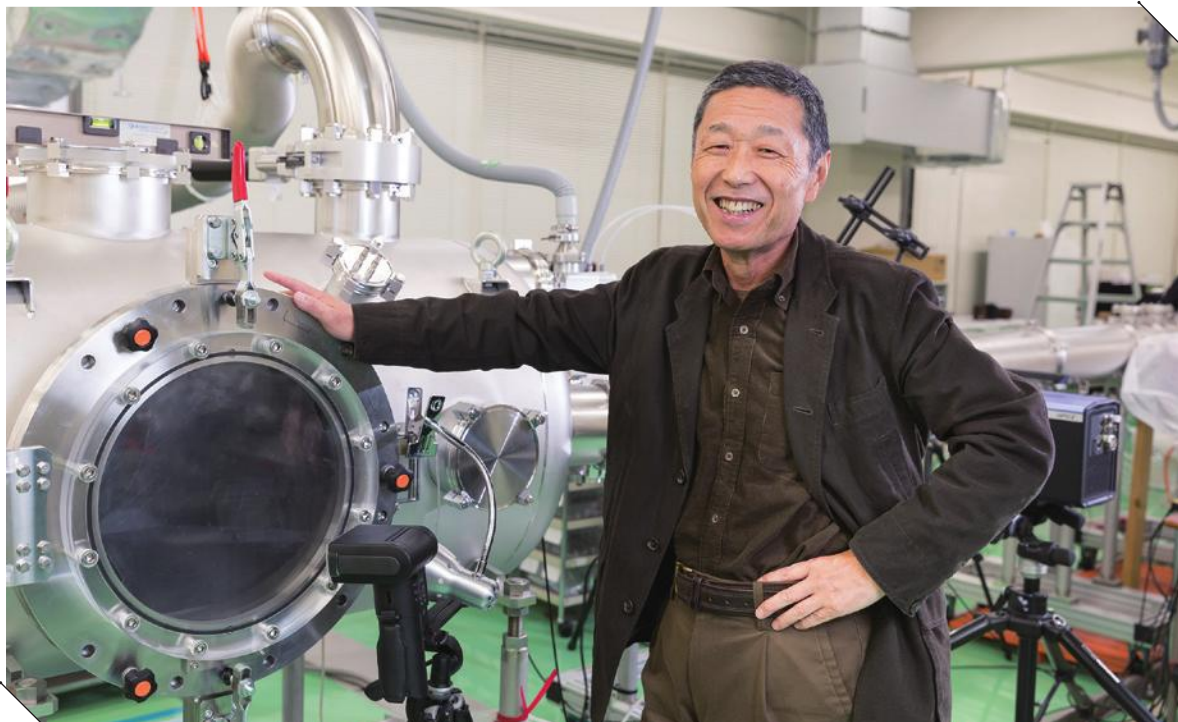


むさしの TALK

松井孝典さん
(惑星物理学者)

新しい発想を生むのに欠かせない リフレッシュできる場所がある

宇宙に生命の起源を求め、研究にいそむ松井孝典先生。
小学生の頃から住む武蔵野市から先生が受けた影響とは。



松井孝典（まついたかふみ）
1946年生まれ。東京大学理学部卒業、同大学院修了。1986年に「水惑星の理論」を発表し、世界中から注目を集める。東京大学大学院新領域創成科学研究科教授を経て、現在は東京大学名誉教授、千葉工業大学惑星探査研究センター所長として惑星物理学、アストロバイオロジーなど生命の起源を探っている。

武蔵野市は「学者のまち」というイメージがあります。朝永振一郎さんが住んでいたし、ほかにも知っている学者さんが何人もいました。学者を惹きつける何かがあるのかもしれないですね。

私に関して言えば、自然の中にいることが好きだったので、まちに緑が多い環境は、自然の根源的な部分を解明したいという学問への欲求を育むのに、大きな影響を及ぼしたのではないかと感じています。

私は今、生命の起源を解き明かすための研究をしています。難しい説明は省きますが「生命を生む」というのは非常に大変なことです。それがなぜ地球で起こり得たのでしょうか。私は、宇宙からもたらされた有機物が地球の生命の起源になったのではないかと考えています。このことを検証するために、世界中でさまざまな実験や研究を行っています。2018年には、小惑星「フェイトン」に探査機「デスティニー」を飛ばして、小惑星から飛んだチリを採取

● PRESENT

今回取材した、松井孝典さんのサイン入り書籍『文明は（見えない世界）がつくる』を抽選で3名様にプレゼント！詳しくは本誌折り込みハガキをご覧ください。



して成分を分析したりするプロジェクトが始まります。どのようなものが見つかるか非常に楽しみです。

私はこれまでさまざまな発想をして、誰も手をつけなかったことを初めて研究し成果を上げてきました。良いアイデアを思いつくのに王道はありませんが、リフレッシュすることは大切。私はよく野鳥の森公園に出かけて散策をします。冬枯れの雑木林の中で木漏れ日を浴びると非常に気持ち良く、凝り固まった思考をほぐしてくれますね。

「宇宙人はいると思うか」ですって？ 私たちは宇宙人に幻想を抱いていますからね。もうすでに地球外生命に接触していて、それに気付いていないだけかもしれませんよ。

